

「防災・減災教育」～災害から生命を守る意識を高める～

全教科での取り組み

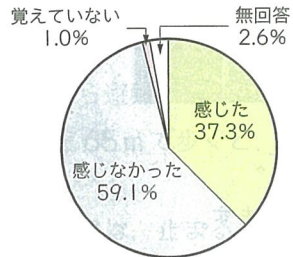
●すべての教科において、防災・減災教育につながる内容を教材化して取り上げ、防災・減災に対して意識を高めたり、自らの生命を守るために主体的に考え行動したりすることができるようにしています。

国語	書写	社会・地図	算数	理科	生活	家庭	保健
<ul style="list-style-type: none"> ●防災や減災に関わる内容に触れた説明文の教材や、防災や減災について主体的に考えて表現する活動を取り上げ、災害から生命を守るための知識や意識が高まるようにしました。 ●「目的や形式に合わせて書こう」災害への備えについて調べたり考えたりしたことを、防災ポスターに表して家族に呼びかける学習 →4下 p.124 ●「町の幸福論—コミュニティデザインを考える」東日本大震災によって改めて重視されるようになった、人と人とのつながりを大切にしたい町作りについて述べた説明文を読むとともに、ほかの本や資料でも調べて集めた情報を活用し、自分たちの町の未来についてプレゼンテーションする学習 →6年 p.129 ●「色さいとくらし」消防自動車、火災報知器などには見る人を強く刺激し人目につく赤、非常口や救護室の標識には安心を与える緑が用いられていることに触れた説明文 →4上 p.126 	<ul style="list-style-type: none"> ●日常生活や他教科に広がる書写を紹介する際に、防災・減災教育につながる教材を、積極的に設定しました。 ●「新聞を作ろう」では、新聞の題材を「消ぼう新聞」とし、書写で身につけた技能を生かした防災への取り組みを紹介しました。 →4年 p.34-35 ●「文字にこめられた思い」を考える教材として、福島の人々の寄せ書きや、東北の野球チームのローガンなどを取り上げました。震災からの復興を目指す人々の思いを考えられるようにしました。 →6年 p.49 ●毛筆教材で「きずな」を取り上げ、協同して防災などに取り組むことの必要性を考えられるようにしました。 →5年 p.14-15 	<ul style="list-style-type: none"> ●各学年と地図帳で、防災教育に関連した教材を掲載しました。 ●3・4年では、「地震からくらしを守る」の小単元を新設し、公助、共助、自助の流れで地域における防災の取り組みを提示しました。 →3・4下 p.20-33 ●5年の防災に関する小単元「自然災害を防ぐ」では、導入で東日本大震災を取り上げたほか、公助、共助、自助の流れで国や地域における防災の取り組みを学習できるようにしました。 →5下 p.128-137 ●6年「震災復興の願いを実現する政治」では、東日本大震災後の復旧・復興における国や自治体等の取り組みを取り上げました。 →6下 p.18-28 ●地図帳では、巻末折込で「日本の自然災害」の特設ページを設けました。 →p.89-91 ●発展・補助教材においても、防災に関する事例を積極的に取り上げました。 ●「風水害からくらしを守る」 →3・4下 p.34-37 ●「社会を変える情報-防災と情報化-」 →5下 p.90-91 	<ul style="list-style-type: none"> ●防災・減災教育につながる場面を取り扱い、防災・減災を意識し寄与しようとする態度を養えるようにしました。 ●身の回りにある四角形として、非常口を示すマークを取り上げました。 →2上 p.102 ●広域避難場所が掲載されている絵地図から、長さを求める学習を取り上げました。 →3上 p.32 ●安全マップをつくるために、危険の可能性のある場所を町ごとに調べた表を考察する活動を取り上げました。 →4上 p.18 ●家から避難所までの道のりについて、歩幅を使って調べる活動や、速さと道のりから、かかった時間を求める活動を取り上げました。 →5下 p.8, 6年 p.118 ●「算数の目で見よう～震災の経験を生かそう」では、宮城県仙台市が行った、今後の防災対策に生かすためのアンケートの結果を考察する課題を取り上げました。 →6年 p.120-121 	<ul style="list-style-type: none"> ●防災・減災への意識を高め、日頃の取り組みや生命を守るための行動などについて考えることができるようにしました。 ●防災・減災への取り組みとして、以下の事柄を紹介しました。 <大雨による災害> ■気象情報の活用 ■ハザードマップ ■堤防やダム の工夫 →5年 p.16, 68, 84-85 <地震による災害> ■緊急地震速報 ■津波の高さを示す標識 ■耐震補強工事が施された学校 ■過去の記録に学ぶこと →6年 p.126-127 ●生命を守るための行動について考えることができるようにしました。 →5年 p.67-68, p.83-85, 6年 p.124-129 ●「理科室の使い方」では、地震の際の対応にもふれました。 →4年 p.178-179, 5年 p.160-161, 6年 p.200 ●災害だけでなく、もたらされる恩恵にもふれることができるようにしました。 →5年 p.69, 6年 p.128-129 	<ul style="list-style-type: none"> ●児童が自ら、安全に気を付けて行動できるように、防災・安全に関わる学習活動や資料を豊富に掲載しました。 ●さまざまな標識やマーク →上 p.21, 22, 95, 下 p.8, 31 等 ●「おはしも」 →上 p.112, 下 p.105 ●災害時の安全な行動を身に付けるための資料 →上 p.20-21, 112-113, 下 p.104-105 ●べんりてちよう「あんぜんにきをつけよう けんこうにこうらう」 →上 p.112-113, 下 p.104-105 ●家庭と連携して、児童の安全を守ることができるよう、家の人と、自分の通学路の安全を確かめたり、災害発生時の行動について確認したりする学習活動を設けました。 ●「いえのひとと つうがくろをあるこう」→上 p.21 	<ul style="list-style-type: none"> ●学習した内容は、少し視点を交えるだけで、防災や災害時に十分役立つことを、特集で紹介しました。 ●ふだんの生活から災害に備えて準備できることがあることを伝えるために、「日々の備え」の特集を設けました。 「針と糸」→p.24 「なべでたくご飯」→p.31 「整理・整とん」→p.51 「家族で防災会議」 →p.81 ●防災への意識の大切さや、人と協力することの大切さを伝える教材として、東日本大震災の被災地の小学生の取り組みや、思いを掲載しました。 「人々をげます『ファイト新聞』編集部のみなさんのお話」→p.109 	<ul style="list-style-type: none"> ●身の回りの危険に気付き、的確な判断の下に、安全に行動できる児童を育成するため、資料の充実を図りました。 ●5・6年「けがの防止」で防災・減災について課題解決的に学習する「自然災害によるけがの防止」(発展的な学習)を新設しました。 ●「自然災害によるけがの防止」では、地震を例に、自然災害による危険を予測し、防災・減災の手立てを考えさせることで、主体的に行動できる子どもを育成できるようにしました。 →5・6年 p.22-23 ●地震以外の自然災害(大雨、大雪、火山噴火)も取り上げました。 →5・6年 p.26 ●「防災安全マップ」を作成する際の視点を紹介しました。 →5・6年 p.27 ●「外で遊ぶときに注意すること」として、災害発生時の安全確保に関する内容を扱いました。 →3・4年 p.29

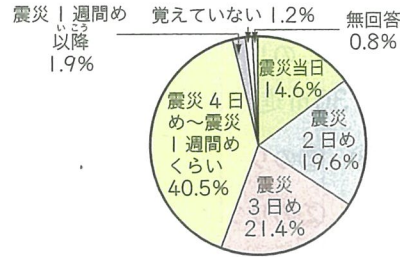
震災の経験を生かそう

東日本大震災ではとても大きな被害がありました。このときの経験を今後の防災対策に生かすために、宮城県仙台市では市民にアンケート調査を行い、7565人から回答がありました。次のグラフは、その調査の結果の一部です。

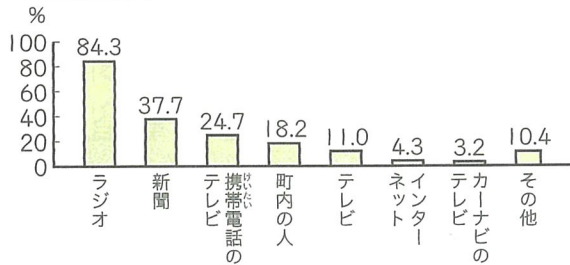
調査結果 1 食料・飲料水の不足で生活できないと感じた人



調査結果 2 食料・飲料水の不足で生活できないと感じた時期(「感じた」と答えた人が回答)



調査結果 3 地震後の停電中に、必要な情報を入手した方法 (複数回答)



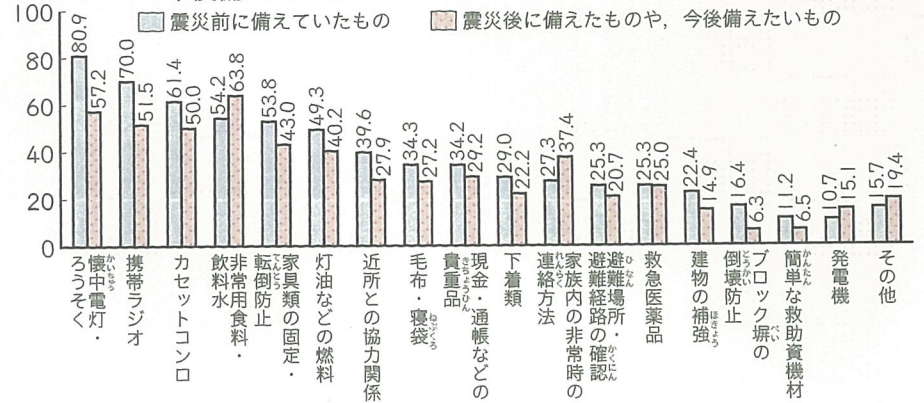
この調査の場合、1人が2つ以上のものを選ぶこともあるよ。だから、百分率で表されていても、合計は100にはならないよ。



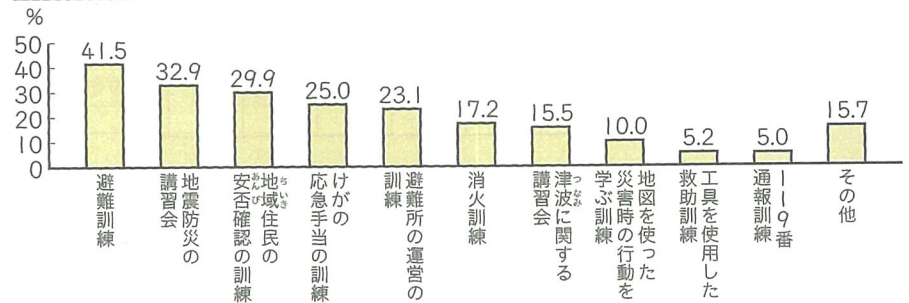
1 上のグラフを見て、次の問題に答えましょう。どの調査結果を見ればよいですか。

- 食料・飲料水の不足で生活できないと感じた人は、回答者7565人のうちの何%ですか。また、その人数を一の位までのがい数で求めましょう。
- 食料・飲料水の不足で生活できないと感じた時期は、いつがいちばん多いですか。
- 地震後の停電中に必要な情報は何かから得たと答えていますか。上位4つを答えましょう。また、上位4つのそれぞれの人数を、一の位までのがい数で求めましょう。

調査結果 4 震災前に備えていたものと、震災後に備えたものや、今後備えたいもの (複数回答)



調査結果 5 必要と感じている防災訓練や講習会 (複数回答)



2 災害が大きいと、救援物資がすぐに届かないこともあります。仙台市の人たちは、どんな備えをしつらよいと考えているでしょうか。

- 調査結果4のグラフを見て、震災前に比べて増えたものは何ですか。
- 調査結果5のグラフを見て、必要と感じている防災訓練や講習会は、何がいちばん多いですか。また、その人数を一の位までのがい数で求めましょう。
- 仙台市では、今回の災害を受けて、各家庭で約1週間分の食料・飲料水をたくわえるように呼びかけています。その理由は調査結果からも読み取れます。どの調査結果を見ればよいですか。
- これらの調査結果を見て、気づいたことを発表しましょう。

「問題解決能力の育成」 ～学習の流れが見える～

全教科での取り組み							
国語	書写	社会・地図	算数	理科	生活	家庭	保健
<ul style="list-style-type: none"> ●児童の主体的な学習を促し、問題解決の能力を身につけることができるよう、問題解決のそれぞれのステップをていねいに展開しています。 ●教科書紙面から学習の流れや取り扱いの意図が読み取れるよう、学習の進め方を示したページを設けたり、紙面の展開・構成を工夫したりしています。 							
<ul style="list-style-type: none"> ●2年生以上の各学年冒頭に、課題解決的な学習の流れを示した「国語の学習を進めよう」を設けました。 →2・4上・5・6年各p.6-7 ●各単元を課題解決的に組織し、単元を貫く課題に応じて思考、判断し表現する学習に取り組めるようにしました。 ●単元冒頭に「単元名」(言語活動)と「ねらい」(つけたいカ/◆印の文)を併記し、どのような活動を通じてどのような力を身に付けるかが明確になるようにしました。→3下p.44, 49等 ●「読むこと」領域のびきの冒頭では、ねらいに則した活動のめあてとなる「学習課題」(黄色枠の文)を位置付けました。 →3下p.56, 75等 ●単元の学習を振り返る観点を、チェックマークを付けて示しました。→3下p.48, 58等 ●国語科で学んだことを他教科等の問題解決に生かすヒントを豊かに提示しました。 ●「ひろがる」 →3下p.59, 121等 ●「言葉の力を活用しよう」 →3下p.178-179等 	<ul style="list-style-type: none"> ●3年以上の基本教材は、硬筆で課題を提示することから導入し、その課題を毛筆で確認し、原理・原則を発見するという学習の流れを作りました。さらに、発見した原理・原則を、ほかの文字にも応用する力を養うよう配慮しました。 →4年p.8-9等 ●毛筆教材の左端に示したインデックスを用いて、書写用語や既習事項を、各児童の課題に応じて確認できる構成にしました。 →4年p.8-9等 ●書写で学んだ知識・技能を生活や他教科に活用する場面を示し、学習の有用性を知らせるようにしました。 ●生活場面への応用教材として、「生活に広げよう」を設けました。→4年p.34-35等 ●他教科と関連する教材には、クリップ型のアイコンをつけました。→5年p.30等 ●他教科で文字を書くときにも書写で学習した知識・技能を生かして書く力を育むよう配慮しました。 →6年p.19等 	<ul style="list-style-type: none"> ●問題解決的な学習過程を通じて、社会科についての理解や考えを深め、公民的資質の基礎を養う過程を分かりやすく提示しました。 ●1単位時間の内容を1見開きで示すことを原則とし、見開きの左ページ側注欄には、本時の「めあて」とその時間の学習段階を明示しました。 ●各学年に見開きで「学習の進め方」を設け、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という学習段階をたどりながら小単元の学習の進め方を示し、問題解決の流れが分かるようにしました。 →3・4上p.24-25, 3・4下p.6-7, 5上p.20-21, 6上p.16-17 ●「学習問題」をつかった後の段階に、「学習問題について予想しよう」「学習計画を立てよう」という予想と学習計画の場面を適宜示し、見直しをもって問題解決的な学習を進められるようにしました。 →3・4上7, 3・4下41, 5上77, 5下15, 6上29, 6下7等 	<ul style="list-style-type: none"> ●全学年において、新たな問題・課題に対し見通しをもち、既習内容を活用して解決して、最後に学習を振り返るといった一連の学習活動で構成しました。 ●キャラクターの吹き出しや補助発問を必要に応じて設けるなど、分かりやすくていねいな問題解決の学習展開を通して、基礎的・基本的な知識や技能が確実に身に付き、それらの意味や原理なども理解できるように構成しました。 ●問題解決の授業展開やノートづくりの事例を取り上げた「考えよう伝えよう」を設定しました。授業とノートのページを連続させ、算数の毎時の学習の流れが分かり、学び方が身に付くように工夫しました。 →2下p.43-47, 3上p.13-17, 4上p.31-35, 5上p.19-23, 6年p.29-33等 ●「考えよう伝えよう」は、授業づくりの参考にしやすくなるように、各巻の前のほうのページに設定しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学習の流れが分かるよう、問題解決の各段階の見出しを大きな文字で示したり、左端に線を入れたりして、教科書のレイアウトを一新しました。 ●問題解決の各段階の記述の仕方を工夫し、それぞれの段階において、問題解決の能力が身に付くようにしました。 ●「問題をつかもう」「予想しよう」「計画しよう」では、児童の主体的な問題解決を通して実感を持った理解がはかれるよう、児童が自ら問題を見出し、見直しをもつことができるようにしました。 ●「考えよう」では、観察、実験の結果を表した表やグラフから傾向を読み取って考察できるようにしました。 →5年p.102, 104, 148 ●「まとめ」(分かったこと)には、「問題」に正対した結論を箇条書きで示し、「考察」(考えたこと)と明確に分けました。 ●「観察・実験」と「結果」「まとめ」は同じ見開きに示さない構成とし、児童が、自分たちが得た結果から考察できるようにしました。 	<ul style="list-style-type: none"> ●低学年児童にとって、身近で切実な問題を解決しながら、自らの思いや願いを実現していく学習活動を充実しました。 ●保健室の冷蔵庫の役割を調べる。 →上p.10-13 ●野菜の成長に合わせて、世話の仕方を考える。 →下p.10-13 ●生き物に適した世話の仕方を考え、用意をする。 →下p.36-39 ●伝えたいことや相手を決め、それらに適した伝え方を考えたり、自分たちで調べ直したりして表現する学習活動を設けました。 ●「つたわる 広がる わたしの生活」 →下p.77-85 ●学習活動の展開に即して活用できるよう、情報の集め方、整理・分析の仕方、まとめ方など、問題解決的な学習における「学び方」を、下巻巻末にまとめて掲載しました。 ●「べんりてちょう」 →下p.103-121 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭科での学習の全体の流れが分かるように、ガイダンス「家庭科を学ぼう」を設定しました。ここでは、家庭科の学習では生活の中から課題を見つけて、それを生かして生活をよりよく工夫することの大切さを説明しました。 →p.4-5 ●すべての大題材を、「1見つけよう」→「2計画しよう・活動しよう」→「3生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」の3つのステップで構成し、教科書の流れに沿って学習をすることによって、生活の中から課題を発見し、基礎・基本の知識・技能を身に付け、学習内容を生活に生かすという問題解決的な学習ができるようにしました。 →教科書全体 ●生活経験の有無にかかわらず、だれもが課題意識をもつことができ、問題解決的な学習をうながすことができるよう、「Do!活動」を設定し、ここでは、それぞれのステップで具体的にどのような活動を行ったらいかがを示しました。 →教科書全体 	<ul style="list-style-type: none"> ●全巻・全学年にわたって、児童の主体的な学習を促し、課題解決の力を育てる紙面構成にしました。 ●「学習の課題」を単元の冒頭で明示しました。 ●主な学習活動は、「学習活動」のマークで統一するとともに、活動内容を言葉で明記することで、学習の流れと活動内容がひと目で分かるようにしました。 ●授業のハイライトとなる場面に、学習した知識をもとに、思考・判断・表現する活動「活用して深めよう」を設けました。 ●「活用して深めよう」では、記入欄を設け、自分の考えを文章で表現するようにしました。